

(学年) 2年次、(教科・科目) 芸術・美術 I

一斉学習

(単元) 塑造表現 -自分の手をモチーフに-

(本時のねらい)

立体作品制作における面と稜線の概念を理解し、自らの作品に取り入れることができる。

(ICT 活用方法)

立体作品制作における面と稜線の概念を説明するために、プロジェクターで画像を投影し、その画像に直接図を描き込む。従来は参考作品を用いて説明したりしていたが、生徒の理解の度合いに差があったことから、より視覚的にわかりやすくするために画像を投影し、直接図を描き込む方法をとった。

(本時の展開)

| 時間 | 学習活動 | 指導事項 | I C T 活用方法 |
|-----------|--|---|---|
| 導入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を振り返る。 ・本時の活動を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの作品に太さ、厚さ(量)が前回までについていることを確認する。 ・参考作品を提示し、その表現の工夫や自らの作品の最終的な仕上げについてイメージを共有する。 ・ヘラを効果的に使用することを指導する。 ・刃物の扱いに十分注意するように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターで映し出した画像に描き込みながら説明し全体に共有する。 |
| 展開 25分 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作のための準備をする。 ・再度作品を面で捉え、表現するというを確認する。 ・プロジェクターで映し出した教室前方の画像を再度確認する。 ・片付けをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の作品、粘土、下敷き、ヘラを配布する。 ・教室を巡回し生徒それぞれの質問等に対応する。 ・刃物の扱いに十分に注意するよう再度伝える。 ・プロジェクターで映し出した画像に再度注目させ、本時の目標を再確認させる。 ・本時の目標を達成するためにヘラを効果的に使用 | <ul style="list-style-type: none"> ・導入のみでなく、展開を通して画像を投影し続けることで、いつでも確認できるようにする。 |

| | | | |
|-----------|---------------------------|---|--|
| | | することを再度指導する。 | |
| まとめ 5分 | ・本時の活動を振り返り、次時以降の活動を確認する。 | ・本時のまとめを行う。 ・本時の目標を今一度共有し、次時以降の活動を確認させる。 | |

(授業の様子)



教材投影方法



展開時の再確認させる様子

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

口頭での説明では理解の難しい内容や、実際の作品を用いた説明では小さいものがあることから全体で共有することが難しい指導は、画像を投影することで生徒全員に共有しやすくなり、理解も深まると思う。

またその場で実際に直接図を描き込むことでより視覚的にわかりやすくなったと感じた。

導入時だけでなく展開時も引き続き投影し、制作中の生徒が自らのタイミングで本時の狙いを視覚的に確認できるようにすることで、自らの作品と参考作品の違いなどに気づくことがあるようだった。